日本児童文学大系

（5）

民主主義児童文学への道

責任編集

猪野省三・菅　忠道
熊谷　孝・関　英雄
巌谷栄二

第五巻

民主主義児童文学への道

刊行のことば

日本に近代的な児童文学が芽ばえた巖谷小波の時代からは半世紀をはるかに越えていますが、それは世界名作の再話や翻訳など移植文学を主流とする歴史であったと、よくいわれています。でも日本の土壌に創造的な成果がみのらなかったわけではありません。人生の深い象徴をこめた小川未明の童話や、子供の感覚をいきいきとうたいあげた北原白秋の童謡をはじめ、世界の水準に照しても珠玉の輝きを放つ数多くの作品をあげることができます。ところが今日までこうした成果を集大成し、埋もれたものを掘りおこして、歴史の流れに位置づけてみるという仕事は、ほとんど放置されたままでした。

児童文学の意義や役割には重い責任がかけられながら、社会的にはむくいられることのうすかったのが、日本児童文学と児童文学者の立場でした。この根底には、子供の人権を正当に認めなかった児童観が横たわっています。児童文学者は同時に子供の社会的な代弁者として、苦難のたたかいをつづけてきたのでした。それなのに、いま、日本の児童文学は、子供たちから背をむけられるという深刻な矛盾に直面しています。こどもの心をとらえているのは、漫画・絵物語に代表される通俗的な娯楽読物でありくちびるにうたわれるのは卑俗な流行歌です。むしばまれてゆく子どもの魂を心配して、両親や教師たちのあいだには、児童文学への高い関心がわき起っています。日本の児童文学が今日のように、国民の

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

きびしい批判と高い期待のまえに立たされたことは、かつてなかったことです。これまで民主的芸術的な児童文学としてたどってきた道を、子供のための国民文学の創造というひろい展望のなかで、見なおさぬわけにはいかなくなっているのです。そのためにも、民話の再評価をはじめ児童文学の源流にさかのぼっての再検討や近代以降の児童文学について達成と欠陥を根本的に考えなおす必要に迫られています。また、一方、子供たちの人間形成における文学の働きをめぐって、文学教育の課題と方法とを理論的にも実践的にも明らかにしなければならないわけです。

こうした要請にこたえて、ここに「日本児童文学大系」全六巻を刊行することになりました。日本の児童文学のエッセンスを集めたこの大系には、日本の子どもたちの生活、よろこび、かなしみ、いかり、夢が、それぞれの時代の特色にいろどられながらいきいきと描きだされています。それは子ども自身のものであるとともに、子どもの心の真実にふれたいと思うすべての親、すべての教師のためのものでもあります。

一九五五年五月一日

猪野省三
巌谷栄二
菅忠道
熊谷孝
関英雄

凡例

一、収載作品は、できるだけ初出の原典（新聞・雑誌など）によることにした。

二、収載に当って、かなづかいは現代かなづかいに、用字は教育漢字を主にした当用漢字まじりに書き改めた。ただし、作品の題名は、原則として初出の表記に従った。

三、収載作品の配列は、（一）童話・小説・児童劇・学校劇、（二）童謡・詩、（三）評論・声明書（運動方針書・アッピールを含む）の各ジャンル別にまとめた。

四、各ジャンル内での作品の配列は、原則として発表年月順によったが、ときに執筆年月順によった場合もある。

第五巻　目次

I　童話・小説・劇

兄の声……小川未明……一五
サバクの虹……坪田譲治……二三
ウイザード博士……平塚武二……三〇
かりゅうどとりょうけん……小林純一……四一
かがみ犬……藤森成吉……四三
草葉のかげ……奈街三郎……五六
三本のローソク……関英雄……六三
あばらやの星……壷井栄……八〇
百まんにんのゆきにんぎょう……佐藤義美……九一
コルプス先生汽車へのる……筒井敬介……九七

だらぴしゃく……国分一太郎……一二三
あたらしい魔法の町……川崎大治……一二八
六十九番の家……塚原健二郎……一四七
子どもはどうしてじぶんのヨワムシとたたかったか……岩倉政治……一六四
原始林あらし……前川康男……一八一
へそくりさわぎ……今井誉次郎……二〇三
太郎と自動車……岡本良雄……二二六
水の上のあけくれ……酒井朝彦……二三五
ビョウブ山の魔物もの……猪野省三……二四九
雨……落合総三郎……二八〇
桃太郎……富田博之……二九三
とびうおのぼうやはびょうきです……いぬいとみこ……三一三
五人で作った雑誌……与田準一……三一八

II 童謡・詩

こどもの旗……佐藤義美……三三三

子ども会の歌……小林純一……三三三
きかん車……なかのしげはる……三三四
さむいおばあさん……小林純一……三三六
今きた一九四八年……まど・みちお……三三七
おまんが紅……巽聖歌……三三八
サーカスのトラ……近藤東……三三八
木の秘密……百田宗治……三三〇
たんぽみち……巽聖歌……三三一
流れゆくもの……巽聖歌……三三二
ひぐれのけやき……柴野民三……三三三
おたんじょう日に……柴野民三……三三四
雨夜……鳴原一穂……三三五
胸のどきどきとくちびるのふるえと……国分一太郎……三三六
美しい花のかげには……大木実……三三七
ともだちシンフォニー……佐藤義美……三三八
戦争とかぼちゃ……清水たみ子……三四〇
すばらしい人間世界……与田準一……三四二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

III　評論・声明書

児童文学者協会創立趣旨と綱領……三四七
子供の部屋……大仏次郎……三四七
子供たちへの責任……小川未明……三五三
児童文学者は何をなすべきか……関英雄……三五四
子どものための文学のこと……中野重治……三六一
現在に於ける童謡の使命……小林純一……三六六
「少女小説」のことなど……壷井栄……三七一
児童の求める文学……塚原健二郎……三七五
子どもが描く理想の人間……菅忠道……三八三
一九五二年・児童文学の課題……菅忠道……三八八
児童文学賞作品の諸問題……高山毅……三九二
児童演劇の現状と課題……富田博之……三九八
少年文学の旗の下とに……早大童話会……四〇四
論争よおこれ……坪田譲治……四〇五

児童よみものについて……大久保正太郎……四〇八
民話について……木下順二……四一一
解説……猪野省三……四一七
年表……菅忠道・鳥越信……四三九

I

童話、小說、劇

兄の声

小川未明

おかあさんはぼくにむかって、よくこう言われました。

「ちいさい時から、おまえのほうは、気が強かったけれど、兄さんはおとなしかった。まだおまえがやっとあるけるじぶんのこと、ものさしで、兄さんの頭をたたいたので、私がしかると、いいよ、いいよ、武ちゃんは、ちいさいのだものと、いって、兄さんは、おこりはしなかった。ほんとうに、がまん強い子でした。」

ぼくは、そうきくと、もの心のつかない幼時のことだけれど、なんとなくいじらしい兄のすがたが、目にうかんで、悲しくなるのです。

兄が、召集されてから後のことでした。

えんがわに、兄のはいていたくつがかわかしてありました。まだ落しのこされたどろがついています。朝晩、兄は、このくつをはいて、通勤もすれば、また会社の用事で、ほうぼうをあるきまわったの

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com